平成 26 年 4 月 24 日

横浜市感染症臨時情報　麻しん　第 2 号

麻しんの感染に気をつけましょう！

- ◆ 全国的に麻しん患者の報告が増えており、今年（4 月 16 日現在 274 件）は既に昨年の報告数（232 件）を上回りました。
- ◆ 海外で感染した人などから、国内で感染が広がる事例が報告されており、感染した人の半数以上は予防接種歴が確認できていません。
- ◆ 職場での感染も報告されています。
- ◆ 麻しんの予防には 2 回の予防接種が必要です。定期予防接種（1 回目：1 歳以上 2 歳未満、2 回目：5 歳から 7 歳未満で小学校就学前 1 年間）の時期にあたる人は早めに麻しん・風しん混合ワクチン（MR ワクチン）を接種しましょう。

麻しん（はしか）とは？

空気感染、飛沫感染や接触感染など、様々な経路で感染し、10～12 日ほどの潜伏期を経て発症します。

非常に感染力が強く、命に関わることもある重篤な感染症です。最初は 38℃前後の発熱や咳などの症状が出て、その後熱が 1℃程度下がった後、半日くらいして再び高熱（多くは 39.5℃以上）と発疹が現れます。感染が疑われる際は、事前に電話で相談の上、早めに医療機関を受診しましょう。

◆ 参考：特集麻しん 2014 年 3 月現在（国立感染症研究所）
麻しん（はしか）について（横浜市保健所）

発疹出現の 1～2 日前頃に頬粘膜に現れる白色小斑点（コプリック斑）（国立感染症研究所）

麻しん患者発生状況（市内感染症発生動向調査）

	発病月	年齢	海外渡航先	予防接種歴	遺伝子型
1	1 月	幼児	フィリピン	無し	B3
2		乳児	フィリピン	無し	B3
3		30 歳代	フィリピン	不明	B3
4	2 月	乳児	渡航歴無し	無し	B3
5		30 歳代	渡航歴無し	不明	B3
6	3 月	30 歳代	渡航歴無し	不明	D9
7	4 月	幼児	渡航歴無し	無し	B3

B3、D9 型は、海外で流行している麻しんウイルスの遺伝子型です。

今年は 7 名が報告（横浜市民が市外医療機関を受診した報告含む）されています。昨年の横浜市への報告は症状から診断された 2 件のみで、いずれも遺伝子検査などのウイルス検査はされていません。麻しんの診断の確定では、遺伝子検査などで麻しんウイルスを検出することが大切です。

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課　TEL 045(671)2463
横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課　TEL 045(754)9815